

まちづくり重点戦略(素案)の連関図

1 上越市を取り巻く環境  
(地域の持続可能性を左右する  
社会経済情勢等の変化)

**社会環境**

- 利便性・快適性・経済効率性の追求
  - 技術革新
  - (一部に)過度な利便性・快適性の追求による個人・社会的便益の低下
- 人口構成の変化と人間関係の希薄化
  - [人口構成の変化]
  - 総数の変化(人口減少)
  - 年齢別構成の変化(少子・高齢化)
  - 地域別構成の変化(過疎化・住宅地の昼間人口減少)
  - 家族構成の変化(核家族化)
  - [人間関係の希薄化]
  - コミュニティの衰退
  - 個人情報保護の意識向上
  - 公共心の低下
  - 犯罪の広域化・凶悪化

**経済環境**

- 経済の広域化・情報化産業構造の変化
  - [経済の広域化・情報化]
  - 重厚長大から軽薄短小
  - 高度情報化(I.T・I.C.T)
  - 高速道路開通・新幹線開業〔産業構造の変化〕
  - 第一次産業の衰退・第三次産業の増加
- 都市間競争の激化による格差の拡大(下流社会の出現)または画一化の進展

**自然環境**

- 環境問題の深刻化
  - 異常気象の増加や自然破壊による自然災害の発生・生態系の変化
  - 化学物質汚染の進行

3 直面する課題(分野別)  
特段の対策を講じない場合  
各分野で生じる課題

**健康・社会福祉  
教育・文化**

- a 不健康な人の増加
  - 生活習慣病の増加
  - 1 高齢化の進展による病気の増加
  - 2 高齢化・核家族化の進展による自殺・孤独死の増加
  - ストレス等による病気・自殺の増加
  - 環境要因による病気の増加
- b セフティーネットを必要とする人の増加
  - 定年退職者・ニートなど
  - 非労働力の増加
  - ワーキングプア・生活保護対象者など低所得者の増加
- c 子育て・教育環境の悪化
  - 複雑化・多様化する社会へ対応するための教育内容の増大
  - 1 こどもへの過度な期待
  - 2 生きることの大切さや能力を自然に学べる環境の減少
  - 3 事件・犯罪に対する不安感の増大
  - 経済力の差による学力格差の発生(二極化)
- d 地域文化・歴史的資源の喪失
  - 市民生活面での存在価値低下
  - 経済的な存在価値低下
  - 伝承する担い手の減少

**産業経済**

- e 地域経済(地場産業)の衰退
  - 生産年齢人口の減少による消費減
  - 農業の衰退 農山村の衰退
  - 域外資本の参入による中心市街地の衰退
  - 公共事業の減少による建設業の衰退

**生活(安全安心)・環境**

- f 犯罪の広域化・凶悪化
  - 人間関係の希薄化と経済の広域化による
  - 国際関係の悪化 国家的問題として
- g 自然災害の増加
  - 自然災害の増加
  - 里山の荒廃による生態系の変化(熊の出没など)
  - 地球環境問題の深刻化 国家的・世界的問題として

4 取組方向  
理想と現実のギャップを埋めるため  
上越市の特性を活かしながら取組む方向性

白抜きは、対症療法的な取組  
色塗り箇所は、適応または原因療法的な取組

- 健康相談・病原対策など
- 健康づくりのための学習推進(食育)
- ライフスタイル提案型の健康づくり
- 効果的なセフティーネットの確立
- いきいきと暮らせる機会の確保("地域デビュー"など)
- 学校教育の充実
- 地域ぐるみの子育て・教育
- 地域文化・歴史的資源の保存と継承
- 地域文化・歴史的資源の新たな価値の創出
- 農林水産業・工業の振興
- 中心市街地の活性化(商業振興)
- 地域内産業連関の強化
- 観光・交流促進による外貨獲得
- 人材確保・育成のための基盤整備
- 災害・犯罪への適切な対応
- 災害・犯罪に強い地域力の向上(減災)
- 災害・犯罪を抑制する都市基盤整備(防災+減災)
- 自然環境等の活用による自然災害の発生源対策
- 生活・自然・地球環境の保全
- 環境教育の推進
- ライフスタイル提案型の環境負荷削減
- 需要に対応した都市基盤整備と維持管理
- 需要を創出・誘導する都市基盤整備
- あらゆる人々の人権の尊重
- 財政運営の健全化
- 行政運営の合理化
- みんなでまちづくりを進めるためのしくみづくり

7 まちづくり重点戦略  
取組み課題を具現化するための施策群  
これを土台として「重点プロジェクト」を作成

**交流(つながり)**

- 【1】コミュニティ内の交流("ご近所の底力"向上)
  - 高齢者等の生きがいづくり
  - 子育て・教育の場づくり
  - いざというときの地域力強化
  - 地域別まちづくりを可能とする制度構築
- 【2】市内の交流・循環("地産地消"の推進)
  - 農を活かした健康づくりの推進
  - 子育て・教育の場づくり
  - 地域内産業連関の強化
  - 防災機能の向上
  - 循環型社会の構築
- 【3】市外との交流("上越サポーター"の獲得)
  - (情報交流・交流・二地域居住・定住の「4つの人口」の獲得)
  - \* 交流による活力向上(精神的効果等)
  - 子育て・教育の場づくり
  - まちなか観光の推進による中心市街地の活性化(歴史的資源の活用)
  - 外貨獲得と新たな雇用の創出

5 将来都市像・基本理念  
まちづくりを進めるうえで  
大切にしたいこと  
目指すまちの姿

- 生きがいをもてるまち
  - のプロ育成
  - まちづくり活動、なりわいづくり
  - 生きる楽しみ、ライフワーク
- 愛着と誇りをもてるまち
  - 地域に根ざした教育・学習
  - 地域資源の活用
- 交流・出会い
  - 地勢のポテンシャルの活用
  - 人とのつながりを大切にする
  - 外部からの力もまちづくりに活用
- 自然の恵み(海・山・大地)
  - 自然とのつながりの再認識
  - 学びや感性を育む
- 多様性
  - 多様性あつての上越市
  - 多様性あつての(相互)交流
- 機能の明確化(役割分担)
  - 都市間競争時代における都市力強化のため

行政をとりまく環境(国政等)

地方分権の進展

- 市町村合併
- 財源、権限委譲 特区、特例市、道州制
- 国の補助金削減
- 地方交付税の見直し 権限と責任の増大

都市整備・行財政部門へは  
上記要因が複合的に影響

**都市整備**

- h 都市計画と開発の乖離
  - 都市開発と時間遅れのインフラ整備
  - 未利用市街地の増加(住民1人あたりライフサイクルコストの増大)

**行財政、自立・共生**

- 人権問題 普遍的問題として
- i 市財政の硬直化
  - 「公」の拡大
  - 「官」のスリム化の要請
  - 市財政の硬直化(税収の減少と固定経費の増加)
  - 市職員の削減(増加する行政ニーズと相反)